

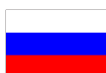
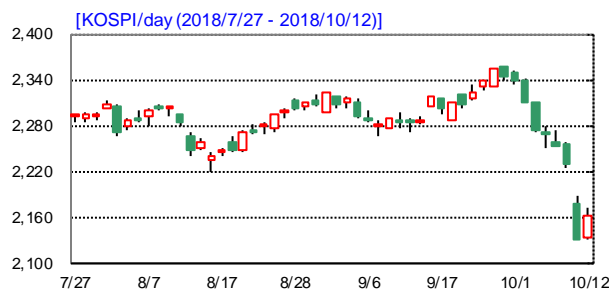


## 【韓国】 総合指数は週間で4.7%安と続落、米株安で一時1年6カ月ぶり安値

### 先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で4.7%安と大幅に続落した。9日がハングルの日で休場のため、4日間の取引。週明け8日は、連休明けの中国株式市場の大幅下落が嫌気され、総合指数も下げて始まった。休場明けの10日も続落し、年初来安値を更新した。国際通貨基金（IMF）が韓国の18年経済成長率見通しを3.0%から2.8%下方修正したことを受け、景気減速懸念でハイテク株や自動車株を中心に売りが広がった。11日はさらに4%超の下げ。前日の米国株の急落を受けてアジア市場が軒並み大幅安となる中、17年4月以来、約1年6カ月ぶり安値をつけた。12日は9営業日ぶりに反発した。今週も米国市場の動向をにらみ、不安定な相場が続くか。国内では16日に輸出物価上昇率、17日に金融統計、18日に中銀基準金利が発表される。

▼指数チャート

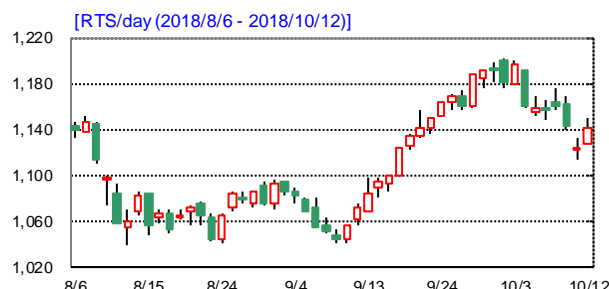


## 【ロシア】 RTS 指数は週間で1.6%安と続落、今週は米国株の動向をにらむ展開か

### 先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で1.6%安と続落。米国発の世界株安や原油安を受けて10-11日に続落した。前週に2.7%安と4週ぶりに反落したRTS指数は週初の8-9日は狭いレンジでのみ合いとなったが、10日に米長期金利の上昇を嫌気して米国株が急落すると、株安が世界の株式市場に波及。新興国市場では資金流出懸念が強まった。ブレント原油相場が10-11日の2日間で5.6%安と急落したことも重しとなり、RTS指数は10日に前日比1.4%安、11日に1.7%安と大幅に続落した。12日は弱い米経済指標を受けて米利上げ加速懸念が和らいだことに加え、原油安の一方で買い戻しが優勢となり、指数は前日比1.5%高と反発。週間の下落幅を縮小して取引を終えた。今週は原油相場や米国株の動向をにらんだ展開か。

▼指数チャート

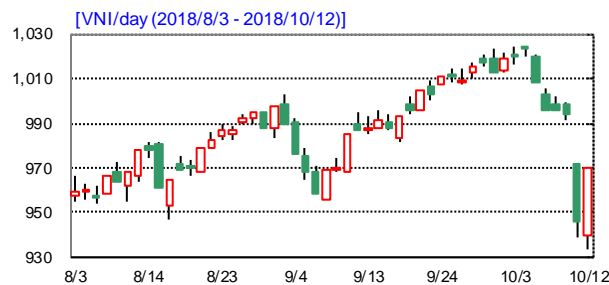


## 【ベトナム】 ベトナム指数は週間で3.8%安と大幅続落、今週は買い戻しが優勢か

### 先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で3.8%安と大幅続落。中国株安を受けて下落してスタートし、米国株の急落で下落幅を拡大した。米国製ハードウェアに対する中国のスパイ報道で中国株が大幅安となり、週明け8日のVN指数は1.2%安と下落してスタートした。9-10日はもみ合いとなったが、11日は前日のNY市場で米長期金利の上昇を嫌気しダウ平均が800ドル超下げことでVN指数も前日比4.8%安と大幅に下落。7月27日以来の安値で引けた。12日は米利上げペースの加速見通しが後退したことで買い戻され、指数は2.6%高と反発。下げ幅を縮小して終了した。年初来では1.4%安となり、再びマイナス圏に入っている。今週は米利上げペースの加速見通し後退を受け、買い戻しが優勢か。米国では7-9月期決算の発表が本格化する。

▼指数チャート



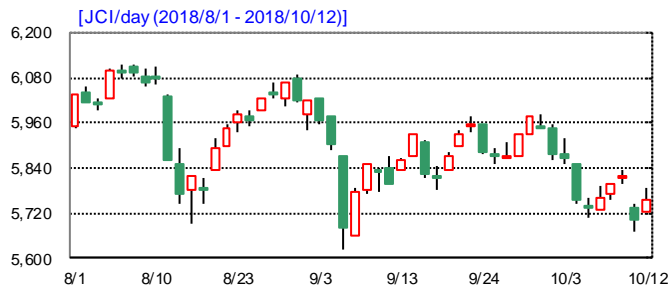


## 【インドネシア】

**【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.4%高、今週は 9 月貿易統計に対する市場の反応が焦点**

ジャカルタ総合指数は週間で 0.4%高と反発。国内の重要イベントが少なく、外部要因に左右された。週初の 8 日は前週に 5 日続落した反動で反発してスタート。その後もじりじりと上値を広げ 10 日には終値で 5 営業日ぶりに 5800 ポイントを回復した。ただ、11 日は前日の NY ダウが長期金利の急速な上昇に伴う不安感の広がりなどで大幅続落した影響で、指数は前日比 2.0%安と反落。一方、12 日は前日に発表された米国の 9 月の消費者物価指数の上昇率が市場予想を下回り、利上げペース加速への懸念が和らいだことが好感され反発して引けた。今週は 15 日発表の 9 月の貿易統計に対する市場の反応が焦点か。

### ▼指数チャート

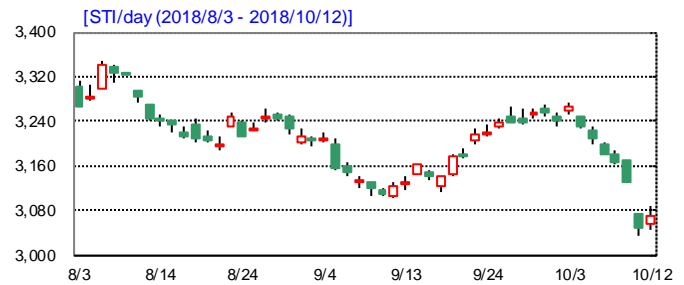


## 【シンガポール】

**【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 4.4%安、通貨庁が今年 2 回目の金融政策引き締めを決定**

ストレーツタイムズ指数は週間で 4.4%安と続落。週末の反発を除き、軟調な値動きだった。週初の 8 日は前週末から下げ止まらず 3 営業日続落。10 日は国際通貨基金 (IMF) が新興国からの資金流出額が 08 年の金融危機以来の規模に達する可能性を指摘したことが嫌気され、指数は終値で前日比 1.1%下落した。11 日はさらに 2.7%安と 17 年 2 月以来の安値を更新したが、12 日は 7 営業日ぶりに反発して引けた。同日に発表された 7-9 月期の GDP 速報値は前年同期比 2.6%増。金融通貨庁は市場の予想通り、今年 2 回目の金融政策の引き締めに踏み切った。今週は 17 日に 9 月の非石油地場輸出が発表される予定。

### ▼指数チャート

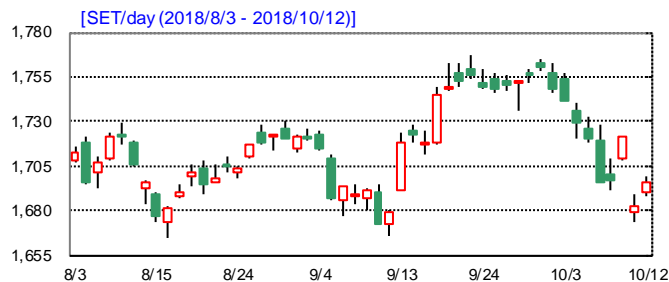


## 【タイ】

**【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 1.4%安、今週は 1700 ポイント回復を試す展開か**

SET 指数は週間で 1.4%安と続落。不安定な値動きが続いた 1 週間だった。週初の 8 日は中国株の下落に連動し、指数は終値で前営業日比 1.4%安。一方、9 日に小幅ながら 6 日ぶりに反発すると、10 日は前日比 1.5%高と続伸した。ただ、勢いは続かず 11 日はタイ石油公社 (PTT) が売られ、前日比 2.3%安と反落。同社は子会社を通じて仏系発電事業者のグロウ・エナジーの株式取得を計画していたが、事業の独占につながる可能性があるとして、当局が買収を阻止した。今週は国内の経済イベントが少ない中、節目の 1700 ポイントを回復できるかが焦点になる。15 日はラーマ 9 世記念日の振替休日のため休場。

### ▼指数チャート

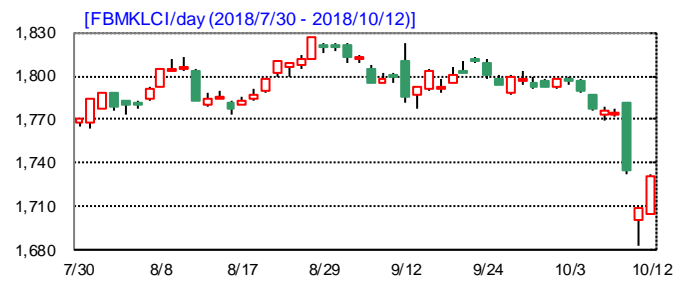


## 【マレーシア】

**【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 2.6%安、新税導入計画を嫌気**

クアラルンプール総合指数は週間で 2.6%安と 3 週続落。前週半ばから下げ止まらず低迷したが、週末に反発した。週前半は小幅なレンジでの値動きで推移したもの、10 日はマハティール首相が債務削減を目的として、新税の導入計画と国有資産売却の可能性に言及したことが嫌気され、指数は終値で前日比 2.2%下落。11 日は前日の NY ダウの急落に連動し、さらに 1.5%安と 3 カ月ぶりの安値を更新したが、12 日は反動で買い戻され、前日比 1.3%高と 8 営業日ぶりに反発した。今週は国内の重要イベントが少なく、19 日に発表される中国の 7-9 月期の GDP など、外部要因が株式相場を左右する展開になりそうだ。

### ▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。